



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

2007年7月20日
MR/J31/07

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京渋谷区神宮前5-53-70

Tel.: 03-3499-2811
Fax: 03-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: http://www.unu.edu/

国連大学高等研究所といしかわ国際協力研究機構、 「日本における里山・里海のサブ・グローバル評価」 公開ワークショップを開催

内容： 「日本における里山・里海のサブ・グローバル評価」公開ワークショップ
日時： 2007年7月27日（金）午後1時～午後5時30分
場所： UNハウス、エリザベス・ローズ会議場（東京）
主催： 国連大学高等研究所（UNU-IAS）、いしかわ国際協力研究機構（IICRC）

背景

- 本ワークショップは、日本の里山・里海に関するミレニアム生態系評価（MA）のサブ・グローバル評価（SGA）の実施に向けて開催する一連の会議のひとつである。
- 日本は国土の約4割が里山と言われている。一方、農村から都市への人口流出の増加、労働力の高齢化、管理放棄、土地利用の転換などの要因により、里山は減少あるいは劣化している。こうした傾向は、生物多様性や遺伝資源、食文化、伝統的知識、文化的価値、気候の調整、病害の制御といった、里山からの重要な生態系サービスを脅かしている。
- 本SGAは、里山や里海が提供する生態系サービスを特定し、それらを日本において持続可能な形で管理する方法を提案しようとするものである。地域の人々の暮らしに必要な生態系サービスの変化に焦点をあて、政策関連の課題やユーザーのニーズに基づいて行われる、この里山・里海に関するSGAは、日本で行われる初めてのSGAとなる。本評価は、地域や国家の計画、戦略、および政策に役立てられると同時に、環境と持続可能な開発に関する国際的政策決定過程に寄与することが期待される。
- ひとつの大きな目標は、日本政府が開催地として立候補している2010年の生物多様性条約第10回締結国会議（CBD/COP-10）にインプットを与えることである。また、評価の成果は次期MAにも示唆を与えることが期待できる。

イベントの概要

- ワークショップには、関係省庁、地方自治体、学術・研究機関、産業界、NGOのほか、里山・里海の問題に関心を寄せる個人など、幅広いユーザーおよび関係者の参加を募る。参加者には、評価に関連する重要な問題を自由に議論して、評価プロセスに示唆を与えることが期待される。
- ワークショップの目的は以下の通り。
 - MAおよび里山・里海SGAに関する説明
 - 評価対象サイトの選定基準の検討と、対象サイトとして可能性のある地域についての議論および明確化
 - 里山・里海の現状や傾向の検討
 - 評価における科学評価パネルのメンバーや執筆者の選定基準の議論および明確化
- 英日通訳あり。

本イベントの取材または参加を希望される方は、下記担当者までご連絡ください。

国連大学高等研究所（UNU-IAS） 担当：臼井（ウスイ）

（電話：045-221-2305 メール：usui@ias.unu.edu）

*里山・里海は、人々の居住地のほか、農地、二次林、ため池、干潟など様々な生態系を包含し、人間の暮らしに不可欠なサービスを提供する地域を表す言葉です。

MEDIA ALERT